

2024 12/10

No.2224

毎月第2・第4火曜日発行

政経 かながわ

一般社団法人
— 神奈川政経懇話会 —



26年ぶりの日本一に輝いた横浜DeNAベイスターズの優勝パレードが11月30日、横浜市中区で行われた。横浜ハンマーヘッドから横浜スタジアムまでのおよそ1.5kmの沿道には約30万人が詰めかけ、歓喜の渦に包まれた。



視点点描	3
4度目の勧告追い風に	
特集	4
海外移籍加速と 個のレベルアップ サッカーW杯予選 日本快進撃の背景	
政治双眼鏡	8
斎藤氏勝利、ネットが決定的役割 中央政界に衝撃、分断でなく統合目指せ	
平井久志×リアルワールド	9
「令夫人」が政権最大のリスクに	
よんななエコノミー	10
「モダンラグジュアリー層」と 地方のポテンシャル	
蝶花楼桃花のNEWS箸休め	11
残せない女	
本郷和人 歴史の舞台をゆく	12
その名は「静岡」	
かながわTODAY	14
11月の主な経済ニュース	

事務局だより

◇2024年12月定例講演会
＝シンポジウム・交流会
12月16日(月)午前11時～午後
1時30分
メルヴェーユ(桜木町駅近く)
講師：共同通信社政治部長・
杉田 雄心
共同通信社経済部長・
加藤 裕
共同通信社外信部長・
清水健太郎
神奈川新聞社論説主幹・
鈴木 達也
演題：「2025年の動向を読む」

◇2025年1月定例講演会
1月16日(木)午後2時～3時30分
ロイヤルホールヨコハマ(横
浜市中区山下町)
講師：歴史学者・本郷 和人氏

◇2025年2月定例講演会
2月13日(木)午後1時30分～
3時
メルヴェーユ(桜木町駅近く)
講師：フェリス女学院大学学長・
小檜山 ルイ氏

◇2025年3月定例講演会
3月3日(月)午後1時30分～3時
ロイヤルホールヨコハマ(横
浜市中区山下町)
講師：元横浜高校野球部監督・
渡邊 元智氏

視点 点描



4度目の勧告追い風に

国連の女性差別撤廃委員会は10月、夫婦同姓を義務付ける民法の規定を見直し、選択的夫婦別姓を導入するよう4度目の勧告をした。

勧告に先立って8年ぶりに実施された対面審査で、日本政府は「検討を進める」と答え、慎重姿勢を崩さなかった。だが、委員会は、夫婦同姓を強いる民法の規定を「差別的」だとし、「過去の勧告への対処

が何もなされていないことに懸念を抱いている」と批判した。法制審議会が選択的夫婦別姓を導入する民法改正案を答申したものの、一

部の反対で法案提出が見送られてから28年。日本はいまだ「検討を進める」段階から抜けられずにいる。それでも社会には変化の兆しが見え始めている。10月の衆院選前に報道各社が実施した世論調査で

は、7割近い人が選択的夫婦別姓の導入に賛成した。自民党支持者に限っても6割を超え、20〜30代に限れば9割近い人が支持したという調査結果もあった。

経団連も動いた。6月、経団連は選択的夫婦別姓の早期実現を求める提言を初めて発表した。現状の制度は「女性活躍を阻害する」とし、選択的夫婦別姓の実現は「ダイバーシティ政策の一丁目一番地」であり、「選択肢のある社会の実現」を訴えた。経団連が女性役員を対象に行った調査では、旧姓の通称使用が可能な場合でも不都合や不利益が生じているとの回答が9割近くに上った。

民法では「夫婦は、婚姻の際に定めるところに従い、夫又は妻の氏を称する」と定め、夫婦同姓を義務付けている。だが、実際には9割の夫婦で女性が改姓しており、その背景に「結婚したら女性

が名字を変えるもの」という、かつての家制度由来の社会圧力がいまだ存在していることは否めない。

氏名は、人格の象徴であり、個人の尊厳に関わる問題で、夫婦同姓を強いる現行制度は、改姓を望まない人たちの人権を侵害している。対して、選択的夫婦別姓は、同姓か別姓かを選択する自由を認めるものだ。ジェンダー平等の実現のためにも早期に実現してほしい。それには国会での深い議論が不可欠だ。先の衆院選では、与野党ともに裏金問題ばかりを取り上げ、具体的な政策論争がないまま終わった。選択的夫婦別姓の推進に消極的な自民党の一強時代は終わり、公約上は推進に積極姿勢を見せる野党が躍進した。これまでにない緊張感のある国会論戦の末に事態が動くことを期待している。

(神奈川新聞社編成部長)

小野 たまみ